

表4 国定忠治関連年表

1810年（文化7年）	上州佐位郡国定村の長岡家に忠治生まれる。
1821年（文政4年）	11歳で父与五左衛門が死亡、母親の手で育てられる。
1823年（文政6年）	13歳で博奕を覚え、博徒への道に入る。
1827年（文政10年）	17歳の時、初めて喧嘩で人を殺める。大前田栄五郎（河越頼吾）大親分のもとへ身を寄せて隠れ、無宿人となる。
1830年（天保元年）	大前田栄五郎のすすめで栄五郎の子分、百々村（後の佐波郡境町内）の紋次（紋二とも）の配下に。紋次の死後、その縄張りを譲られて跡目を相続し、一家を成す。忠治21歳。
1834年（天保5年）	7月2日、子分の三ッ木文蔵が賭場で殴られた件の仕返しに、隣の縄張りを持つ島村（町田）伊三郎を米岡神社におびき出し、闇討ちにして斬殺。信州へ逃亡。信州の勝太の客となるが、信州の博徒らの裏切りで召捕られそうになる。それを見破って上州へ逃亡。赤城山に籠る。日光円蔵・八寸犀乙・山王民五郎・武川浅二郎らの子分を抱え、一家が拡大。
1835年（天保6年）	玉村宿の玉村京蔵・主馬兄弟が山王堂村の山王民五郎の賭場を荒らしたため、民五郎に子分2人を加勢させて山王兄弟を襲撃させる。
1836年（天保7年）	信州中野村で弟分の茅場長兵衛（兆平とも）が、博徒源七に殺される。子分20人を連れて仇討のため信州へ。源七はすでに逮捕されており、上州へ戻る。
1837年（天保8年）	3月、子分の三ッ木文蔵が公儀に逮捕され、木崎宿に宿泊中の役人を襲って奪還をこころみるが失敗。信州などへ逃亡。田部井村名主宇右衛門と謀り、磯沼浚工事の人足小屋で博奕開帳。賄賂17両を宇右衛門に贈る。八州出役600人が賭場を急襲、日光円蔵らとともに再び逃亡。
1838年（天保9年）	3～4月、東上州大間々宿周辺に潜伏。関八州取締出役の大規模な捜索を受けるが、逃亡。
1941年（天保12年）	玉村主馬が山王民五郎を殺害。
1842年（天保13年）	忠治、逃亡中の会津から戻って玉村主馬を殺し、山王民五郎の仇を討つ。田部井の賭場の手入れの件で、その場にいなかった子分の板割浅太郎（浅次郎とも）が、その伯父で二足のワラジを履く三室の中嶋勘助に密告したのではと嫌疑をかける。9月13日、浅太郎に勘助とその子の太郎吉（勘太郎）を斬殺させる。9月、日光の円蔵以下、忠治一家9人の手配書が関八州から出される。一家は公儀の追手を逃れるため鎗・鉄砲で武装して大戸関所を破る。信州路で殺された長兵衛の仇討ちを理由に、多数の子分を引き連れて信州へ脱出。子分の板割浅太郎・日光の円蔵が逮捕され、死罪となる。
1846年（弘化3年）	公儀の追手から逃れて赤城山に潜伏。信州・甲州から越後・会津・美濃まで放浪したと伝えられる。
1849年（嘉永2年）	11月、境川の安五郎に跡目を譲って親分を引退。

1850年(嘉永3年)	7月、潜伏先の赤城山を脱出、妾のお町宅で7月21日、中風に倒れる。田部井村の宇右衛門宅に潜伏中の8月24日、関東取締出役によって捕縛される。江戸送りとなり、伝馬町の牢屋入り。11月、勘定奉行池田播磨守頼方預かりで吟味がなされ、死罪判決が出される。12月21日、三度におよぶ関所破りの罪により上州大戸の処刑場へ送られ磔刑、14本の槍を受け41歳の生涯を終える。処刑時の警護人は300人、見物人は1500人を記録した。遺体は養寿寺・善応寺などに葬られる。野沢温泉に忠治地蔵が祀られる。
1851年(嘉永4年)	上州岩鼻陣屋代官で儒学者であった羽倉簡堂(外記)の手で『劇盗忠二小伝(赤城録)』がまとめられる。
1860年(安政7年)	宝井琴凌による講談『国定忠次』初演。
1879年(明治12年)	『国定忠治実伝』がまとめられる。
1882年(明治15年)	忠治三十三回忌に養寿寺に墓石が建てられる。
1919年(大正8年)	新国劇『国定忠治』上演(行友李風・沢田正二郎作)。
1925年(大正14年)	土師清二による大衆小説『深紅赤城嵐』。
1927年(昭和2年)	日活無声映画『忠治旅日記』制作・上映。「甲州殺篇」・「信州血笑篇」・「御用篇」の三部作(伊藤大輔監督・大河内伝次郎主演)。
1932年(昭和7年)	子母沢寛による毎日新聞連載小説『国定忠治』が発表される。新国劇『国定忠治』上演(真山青果作)。
1933年(昭和8年)	千恵蔵プロ映画『国定忠治』(稲垣浩監督・片岡千恵蔵主演)。
1934年(昭和9年)	新興トーキー映画『忠治売出す』(伊丹万作監督)。日活映画『国定忠治』(山中貞雄監督)。松竹キネマ『浅太郎赤城の唄』(秋山耕作監督・高田浩吉主演)。
1935年(昭和10年)	『浅太郎赤城の唄』の主題歌であった東海林太郎の「赤城の子守唄」大ヒット。
1936年(昭和11年)	マキノトーキー映画『国定忠治信州子守唄』(マキノ正博監督・月形龍之介主演)・『忠治血笑録』(久保為義およびマキノ正博監督・葉山純之輔主演)・『忠治活殺剣』(久保為義およびマキノ正博監督・清水英太郎主演)。
1937年(昭和12年)	長谷川伸による大衆小説『国定忠治』。
1938年(昭和13年)	東海林太郎「忠治子守唄」大ヒット。
1939年(昭和14年)	東海林太郎「名月赤城山」大ヒット。
1946年(昭和21年)	大映映画『国定忠治』(松田安次監督・阪東妻三郎主演)。
1950年(昭和25年)	新国劇『極付国定忠治』上演(辰巳柳太郎主演)。
1954年(昭和29年)	日活映画『国定忠治』(滝沢英輔監督・辰巳柳太郎主演)。
1957年(昭和32年)	新国劇『国定忠治』上演(村山知義作)。松竹映画『赤城の血煙』(福田晴一監督・高田浩吉主演)。
1958年(昭和33年)	大映映画『国定忠治』(松田定次監督・片岡千恵蔵主演)。
1960年(昭和35年)	東宝映画『国定忠治』(谷口千吉監督・三船敏郎主演)。第二東映映画『浪曲国定忠治赤城の子守唄血煙り信州路』(冬島泰三監督・若杉恵之介主演)。

1967年（昭和42年）	長野県長野市の善光寺開帳記念行事として、国定忠治祭りが開催され、養寿院より分骨がなされて市内権堂町に忠治の墓が設けられる。
2012年（平成24年）	長野県下高井郡野沢温泉村に忠治地蔵が再建される。

注) 必ずしも史実とは断定できない記事も含む。阿部, 1999:pp. 10-20・笹沢・萩原, 1980:pp. 177・大間々町誌編さん室(編), 1996:pp. 224-228 などによる。